

海の博物館での活動

小中学校の社会見学や修学旅行などでは、知識豊富なスタッフが、施設展示を案内しながら、わかりやすく子どもたちにご説明します。内容のご要望がありましたら、お気軽にご相談ください。

映像観賞

映像ホール
(収容人数 90 名)



『鳥羽志摩の漁法』(約12分)
鳥羽志摩の海でおこなわれている漁業について、魚をとる方法やとる道具、漁の決まりごとなどを紹介しています。

『志摩の海女』(約10分)
志摩半島で盛んな海女漁、海女漁の歴史や海女さんたちがどのようにアワビをとっているか紹介しています。

『津波の映像』(約10分)
2011年の東日本大震災で撮影された津波の映像です。

学芸員によるお話

★低学年(1・2年生)の生徒さんにも、ご希望にそってお話ご案内をさせていただきます。

小学校
中学年向け
(3・4年生)

「昔の道具と人々の暮らし」
洗濯板や火鉢、湯たんぽやアイロンなど昭和の時代に使用していた道具を触ったり、使ってみることができます。

「津波の話」
津波のメカニズムや恐ろしさ、津波が起きた時はどうするかなど、津波から身を守る方法をみんなで考えます。

★ほか「地球の海と鳥羽の海の話」



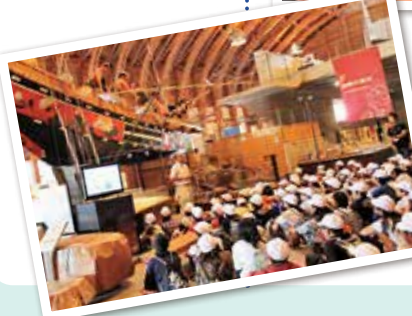
小学校
高学年向け
(5・6年生)

「海の環境の話」
今話題となっているマイクロプラスチックや磯焼け、漂着ゴミなど、海の環境について一緒に考えます。

「漁業・水産業の話」
昔から受け継がれている漁法や、現代の漁業など、漁師さん、海女さんの知恵や工夫を学びます。

「海女さんについて」
日本一海女さんが多い鳥羽市。海女の歴史を勉強したり、実際の道具を見学しながら、海女さんについて学びましょう。

★ほか「津波の話」「魚食の話」
「地球の海と鳥羽の海の話」



“海女”について

“海女”とは、素潜りでアワビ、サザエや海藻をとる漁をする女性のことです。鳥羽市と志摩市には約514人(2022年12月 海の博物館調査による)で全国の約半数の海女がいます。海の博物館では、約3,000年以上続く海女の歴史や、海女が使う道具類、海女の漁獲物などについて紹介しています。海女の資料については日本一を誇ります。2018年3月には三重大学海女研究センターが設置されました。



セーマン(☆)とドーマン(■)
海女さんが海の危険から身を守るために身につける魔よけの印だよ

体験・見学について

見学や体験プログラムはお客様のスケジュールに合わせ、ご提案させていただきます。日時や内容など、ご希望がございましたらお気軽にご相談ください。団体様でのご予約も承ります。

●体験&見学モデルプラン (参加者92名／2班編成の場合)

1班 (46名)	9:00～9:45 クラフト体験	9:45～10:15 映画(約12分) ～学芸員の話	10:15～10:45 館内自由見学	10:55～12:00 磯観察または ビーチコーミング ※潮が満ちている時はできません。	12:00～ お弁当
2班 (46名)	9:00～9:30 映画(約12分) ～学芸員の話	9:30～10:00 館内自由見学	10:00～10:45 クラフト体験	 ★お弁当も食べることができます 天気が良ければ、敷地内の各所でお弁当を食べることができます。 ※雨の場合は映像ホールや体験学習館をご利用ください	

※上記プランは一例です。

詳しくは、海の博物館HPをご覧ください。
<http://www.umihaku.com>

★車イスの貸出しあります
お気軽に、スタッフまでお声かけください。



インフォメーション

開館時間 9:00～17:00 (季節により変動あり)
※船の収蔵庫の見学は16:00までです。
※入館は閉館の30分前までにお願いします。

休館日 6月26日～6月30日・12月26日～12月30日

入館料

	大人(18才以上)	学 生
個 人	800円	400円
団体(20～99名)	720円	320円
団体(100名以上)	640円	280円

※手帳を提示された場合、障害者割引があります。

駐車場 大型バス・乗用車とも、無料

交通のご案内

●電車の場合
JR・近鉄鳥羽駅より、パールロード経由のかもめバスで35分。「海の博物館前」下車すぐ。
※バスの本数が少ないため、事前にお確かめ下さい。

●自動車の場合
伊勢自動車道伊勢西ICから伊勢二見鳥羽ラインを経由しパールロード沿い 40分



近隣施設

鳥羽展望台(車で5分)、鳥羽水族館(車で20分)、志摩スペイン村(車で30分)、伊勢神宮(車で50分)



鳥羽市立 海の博物館

T517-0025 三重県鳥羽市浦村町大吉1731-68

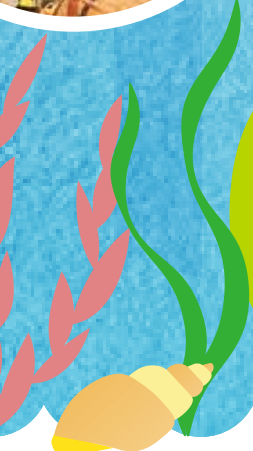
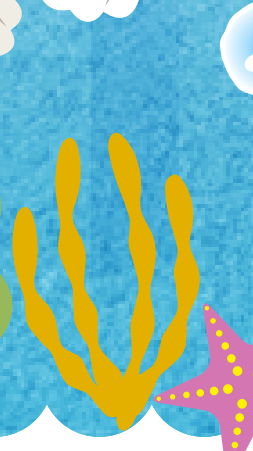
TEL 0599-32-6006 FAX 0599-32-5581

URL <http://www.umihaku.com>

鳥羽市立 海の博物館

TOBA SEA-FOLK MUSEUM

学生団体向けパンフレット



鳥羽市立海の博物館について

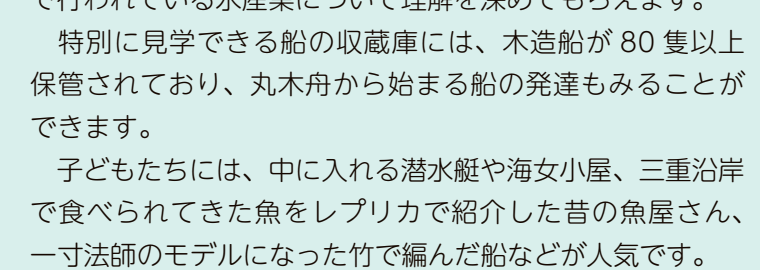
海の博物館は、昭和46年(1971)、漁師さんをはじめとする海に生きた先人たちの知恵や歴史・文化を後世に伝える博物館として、三重県鳥羽市に誕生しました。

昭和60年(1985)、収蔵する漁撈用具など6,879点が、「伊勢湾・志摩半島・熊野灘の漁撈用具」として国の重要有形民俗文化財となりました。

開館以来、海の博物館が収集した漁撈用具や漁村の信仰・生活用具などの実物資料の数は60,000点を超過しています。広い敷地には木造空間が広がる展示棟、資料保存の工夫がいっぱいの収蔵庫、海に関する体験ができる学習館など、8棟の建物が並んでいます。

展示について

展示は、「海民の伝統」「海の汚染」「海民の信仰と祭り」「伊勢湾の漁」「志摩半島・熊野灘の漁」「鳥羽・志摩の海女」「木造船と航海」と各テーマに分かれています。博物館近くの白浜遺跡から発掘された弥生時代の漁具、昭和の中頃まで使われていた手作りの漁具など2,000点を超える実物資料が展示されています。展示や映像、学芸員の説明から、海女漁、カツオ漁、イセエビ漁、定置網漁、カキ養殖業などの三重県内で行われている水産業について理解を深めてもらえます。特別に見学できる船の収蔵庫には、木造船が80隻以上保管されており、丸木舟から始まる船の発達もみることができます。子どもたちには、中に入れる潜水艇や海女小屋、三重沿岸で食べられてきた魚をレプリカで紹介した昔の魚屋さん、一寸法師のモデルになった竹で編んだ船などが人気です。



海博の海洋教育とは

海離れがすすむ昨今、国は「海洋基本法」の成立で、2013年の海洋基本計画改訂により「海洋教育」を小中学校の学校教育の中でも推進していく方針を決定しました。海の博物館では、開館当初より子どもたちが海に関心を持ち、環境を守る意識を育んでもらうための海洋教育を博物館活動の重要な柱としてきました。海に触れることで、子どもたちは未知の体験をし、海から多様な感動を得ることができるはずです。

海の博物館はこれまで、東京大学海洋教育促進研究センターと協定を結び、地域制や特色を活かしたカリキュラムの共同開発や、拠点間のネットワーク形成による、実践交流や情報交換などははかっており、今後も海洋教育のよりよいあり方を探究していきます。



